

教育部会自己点検・評価シート（様式1）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：総合教養教育部会

部会長名：米谷淳

作成者名：米谷淳

概要（2000字）

総合教養教育部会（以下、「部会」と略す。）は、17科目、のべ22コマ（44単位）の全学共通授業科目を全学部生に提供している。17科目のうち、「社会と人権」、「国際協力の現状と課題」、「神戸大学の研究最前線」、「神戸大学史」、「社会科学のフロンティア」、「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「阪神・淡路大震災」、「環境学入門」、「ESD基礎」、「企業社会論」の11科目が教養原論、「総合科目Ⅰ」5科目、「総合科目Ⅱ」1科目が「その他必要と認める科目」に区分される。「総合科目Ⅰ」の5科目はそれぞれ、「男女共同参画とジェンダー」、「EU論」、「ボランティアと社会貢献活動」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」、「グローバル人材に不可欠な教養-社会基礎学-（以下、「社会基礎学」と略す）」という副題をもち、「総合科目Ⅱ」は「職業と学び」という副題をもち、「社会基礎学」は今年度新たに加わった。

「社会と人権」は前期・後期に2コマずつ計4コマ、「神戸大学の研究最前線」は前期・後期にそれぞれ1コマずつ開講される以外は前期・後期のいずれかに1コマ開講される。なお、「海への誘い」と「瀬戸内海学入門」は集中講義であり、通常の授業がない7月～9月の土・日などに2・3日をかけて実施される。また、「総合科目Ⅰ（社会基礎学）」は土曜午後に実施される。

2014年10月1日現在、95名の教員が部会構成員となっている。そこには「神戸大学史」の授業の一部を担当されている学長も含まれる。95名の所属部局は法学研究科（10名）、国際文化学研究科（9名）、人間発達環境学研究科（9名）、経済学研究科（8名）の4研究科、内海城環境教育研究センター（7名）、大学教育推進機構（3名）、環境管理保全センター（1名）、都市安全研究センター（4名）、連携創造本部（3名）、男女共同参画室（1名）などである。のべ22コマの授業に対して、コーディネータ等を含めた授業担当者の数が、部会長、部会幹事、非常勤講師を除いて92名もいるのは、部会が提供する科目にオムニバス方式の授業が多いからである。

部会長及び部会幹事は大学教育推進機構専任教授が勤めており、今年度は部会長は米谷教授が、幹事は山内教授と近田教授が務めた。来年度からは大学教育推進機構の改組に伴い、全学共通教育部が国際教養教育院となり、総合教養教育部会は学際教育部会と名称変更する。また、新たにESD教育部会が設置され、ESD科目担当者がそちらに全員異動する。

今年度、全学共通教育部年次計画に従い自己点検・評価及び外部評価を実施した。自己点検・評価作業では、シラバスの精査、成績分布・学生授業評価アンケートの分析、各科目コーディネータに対するヒアリング、授業参観を行った他に加え、広報室の協力を得て「海への誘い」と「瀬戸内海学入門」の授業風景をビデオ撮影し、編集し動画として大学ホームページに掲載し一般公開した。

平成27年2月20日、3名の外部評価委員を学外から招き、大学教育推進機構長、全学共通教育部長、全学共通教育部評価・FD専門委員長の臨席のもとで、部会外部評価委員会を開催した。そこでは、部会長が部会自己点検・評価の概要を説明した後、部会長を含む10名の科目コーディネータが各科目の概要を説明し、質疑応答を行い、最後に3名の外部評価委員から講評をいただいた。（報告書は印刷中。）

今年度の部会提供科目についての自己点検・評価は別紙の通り、17科目中16科目の担当者またはコーディネータから評価シートが提出された。

今年度実施した部会自己点検・評価及び外部評価と年度末の各科目についての自己点検・評価をもとに、今年度の部会の自己評価を以下のように総括する。

各科目ともその内容は人権問題、国際関係、社会問題、環境問題を広くカバーするとともに、学際的・現代的・国際的・先進的であり、教養教育にふさわしく、まさしく総合教養科目と呼べるものである。授業形態は一人の教員が14~15回講義する形式（「国際協力の現状と課題」）や、リレー形式の講義（「社会科学のフロンティア」「神戸大学の研究最前線」「阪神・淡路大震災」「環境学入門」など）だけでなく、「海への誘い」「瀬戸内海学入門」「ESD論」「ボランティアと社会貢献活動」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」のように、野外実習を含んだ体験学習、すなわち、アクティブラーニング型授業もいくつかある。

多くの科目が受講希望者が定員をはるかに超える人気科目であり、学生授業評価アンケートからもわかるようにほとんどが受講者の満足度は極めて高い。このように部会が提供する科目の実施状況は総じて良好であるといえる。

課題としては、コスト（人、施設、経費）がかかりすぎることで、リレー科目における連携に問題のある科目がいくつかあること、科目間のグルーピングや体系づくりをしていく必要性、学生授業評価の回答率の低さと自由記述回答への対応などがある。こうした課題については、次年度以降、検討し、改善していかなければならない。

なお、今年度はピアレビューとして「神戸大学の研究最前線」の内田浩史教授が担当された回を公開し、部会長・幹事が参観し、その講義内容の質の高さ、よく準備されていること、見やすくわかりやすいスライド、ていねいな話し方に感心したことを付け加えておきたい。（2216字）

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150字以上）

部会が提供する科目には、人権問題、ジェンダー、国際関係、環境問題といった社会問題やグローバルイシューを扱う科目（「社会と人権」「男女共同参画とジェンダー」「総合科目Ⅰ（EU論）」「国際協力の現状と課題」「環境学入門」「瀬戸内海学入門」）、最先端の自然科学や社会科学をリレー形式で第一線に立つ研究者自ら解説する科目（「神戸大学の研究最前線」「社会科学のフロンティア」）、神戸や神戸大学について学ぶ科目（「阪神・淡路大震災」「神戸大学史」）があり、バラエティに富んでおり、文系・理系に偏らずバランスもよい。また、アクティブラーニングにより学生が学士力を育成・強化するための科目（「海への誘い」「瀬戸内海学入門」「ESD基礎」「ボランティアと社会貢献活動」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」）とキャリア科目（「企業社会論」「総合科目Ⅱ（職業と学び）」）があり、学士力やキャリア形成支援に役立っている。キャリア科目として、今年から新たに「総合科目Ⅰ（社会基礎学）」が加わった。（437字）

根拠資料

Web シラバス、及び、授業で配布しているシラバスやガイダンス資料

5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

リレー形式・オムニバス形式で毎回異なる担当者が講義する大人数授業（「神戸大学の研究最前線」「社会科学のフロンティア」など）がある一方、小集団に分かれてグループワークやフィールドワークをする少人数授業（「海への誘い」「瀬戸内海学入門」「ESD論」など）があり、それぞれの授業の目的と性格にふさわしい形式で授業を実施している。「瀬戸内海学入門」では班にわかれて実験・測定をさせているが、これは文系学生にも理系の実験を体験させようという目的でなされている。「総合科目Ⅰ（グローバルリーダーシップ育成基礎演習）」では、Moodleを利用して学生間の学習に関するやりとりをさせることで、授業時間外のグループワークを支援した。（307字）

根拠資料

Web シラバス、教科書・教材、授業中に配布する資料など

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

シラバスの成績評価の欄で、成績評価は授業への積極的な参加、授業中の課題の他、授業時間外にさせるレポート等と期末試験（レポート）を総合的に評価する旨を明示し、毎回の授業で出席確認だけでなく、多くの科目で毎回学生にコメントを書かせて提出させている。オムニバス形式の科目では期末レポートで複数のテーマでレポートを書かせて提出させている。（167字）

根拠資料

Web シラバス、授業中に配布するシラバスやガイダンス資料、レポート課題一覧

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

すべての科目のシラバスを精査したところ、すべての欄にしかるべき記入がなされており、必要にして十分な内容が書き込まれていることが確認された。（69字）

根拠資料

Web シラバス、全学教務委員会・全学共通教育部教務専門委員会の会議資料

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

どの科目も教養教育の性格上、とくに予備知識をもたずに受講しても理解できるよう、内容と説明の仕方を適切なものにするべく努めている。また、授業内容が十分理解できなかった学生のため、授業担当者が一人の科目ではオフィスアワーを設定している

他、授業終了時あるいはメールでコーディネータや TA が学生からの質問に答えている。(154 字)

根拠資料

Web シラバス、授業で配布するガイダンス資料やシラバス

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上）

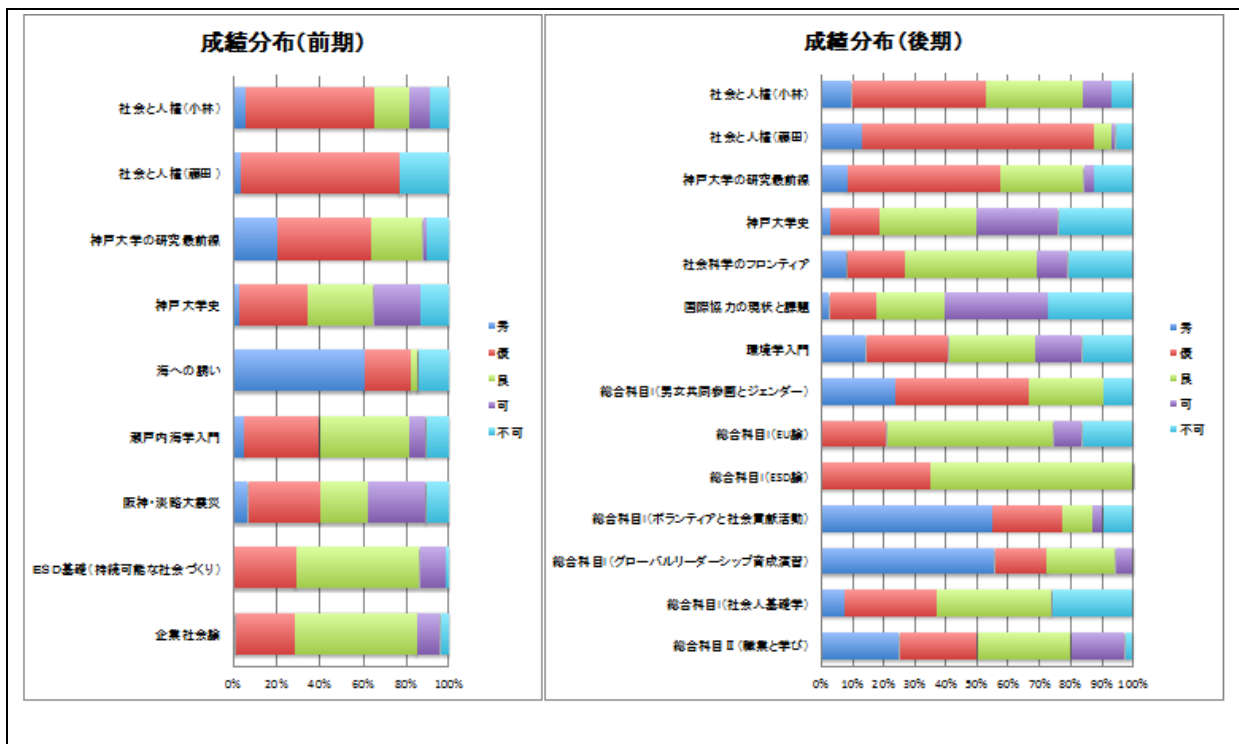
成績評価は期末試験のみでなく、授業への出席状況、課題の点数などを踏まえて総合的に行っている。成績評価の基準はシラバスに明記されているとともに、いくつかの科目ではガイダンス等で学生に説明している。今年度の各科目の合格率及び成績分布を表と図（前期・後期）に示す。根拠資料の表・図に示す通り、特定の科目で「秀」の割合が5割を越しているものがあるが、他は多くて2割台であり、「優」も科目ごとのばらつきは大きい。成績評価・単位認定は概ね適切である。(220 字)

根拠資料

Web シラバス、ガイダンス資料、授業中に配布するシラバス、成績分布、学生授業評価アンケート結果

学期	区分	時間割 コード	科目名	担当	登録	取消	履修	合格	秀	優	良	可	不可
前期	教養原論	1U200	社会と人権	藤田 美佳	61	0	61	77.0%	3.3%	73.8%	0.0%	0.0%	23.0%
前期	教養原論	1U201	社会と人権	小林 洋司	180	2	178	91.0%	5.6%	59.6%	16.3%	9.6%	9.0%
前期	教養原論	1U191	神戸大学の研究最前線	米谷 淳	193	21	172	88.5%	20.3%	43.6%	23.8%	1.7%	10.5%
前期	教養原論	1U203	神戸大学史	河島 真	207	1	206	86.9%	2.4%	32.0%	30.6%	21.8%	13.1%
前期	教養原論	1U204	海への誘い	古庄 雅生	84	0	84	85.7%	60.7%	21.4%	3.6%	0.0%	14.3%
前期	教養原論	1U205	瀬戸内海学入門	兵頭 政幸	65	0	65	88.2%	4.6%	35.4%	41.5%	7.7%	10.8%
前期	教養原論	1U208	阪神・淡路大震災	吉岡 祥一	198	1	197	89.3%	6.6%	33.5%	22.3%	26.9%	10.7%
前期	教養原論	1U197	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	末本 誠	150	2	148	98.6%	0.0%	29.1%	57.4%	12.2%	1.4%
前期	教養原論	1U211	企業社会論	鶴田 宏樹	142	1	141	95.7%	0.7%	27.7%	56.7%	10.6%	4.3%
後期	教養原論	2U200	社会と人権	藤田 美佳	147	2	145	94.5%	13.1%	74.5%	5.5%	1.4%	5.5%
後期	教養原論	2U201	社会と人権	小林 洋司	179	5	174	93.1%	9.8%	43.1%	31.0%	9.2%	6.9%
後期	教養原論	2U204	社会科学のフロンティア	櫻庭 涼子	183	15	168	79.2%	8.3%	18.5%	42.3%	10.1%	20.8%
後期	教養原論	2U206	国際協力の現状と課題	松並 潤	75	2	73	72.6%	2.7%	15.1%	21.9%	32.9%	27.4%
後期	教養原論	2U202	神戸大学の研究最前線	米谷 淳	193	17	176	87.5%	8.5%	48.9%	26.7%	3.4%	12.5%
後期	教養原論	2U203	神戸大学史	河島 真	136	3	133	75.9%	3.0%	15.8%	30.8%	26.3%	24.1%
後期	教養原論	2U209	環境学入門	西山 寛	180	33	147	83.7%	14.3%	26.5%	27.9%	15.0%	16.3%
後期	総合科目	2U838	総合科目I(男女共同参画とジェンダー)	朴木 佳緒留	22	1	21	90.5%	23.3%	42.9%	23.3%	0.0%	9.5%
後期	総合科目	2U849	総合科目I(ESD論)	末本 誠	27	7	20	83.7%	0.0%	20.9%	53.5%	9.3%	16.3%
後期	総合科目	2U839	総合科目I(EU論)	吉井 昌彦	47	4	43	100.0%	0.0%	35.0%	65.0%	0.0%	0.0%
後期	総合科目	2U840	総合科目I(ボランティアと社会貢献活動)	RALEXANDER	32	1	31	90.3%	54.8%	22.6%	9.7%	3.2%	9.7%
後期	総合科目	2U851	総合科目I(グローバルリーダーシップ育成演習)	Harrison Richard	18	0	18	100.0%	55.6%	16.7%	22.2%	5.6%	0.0%
後期	総合科目	2U880	総合科目I(社会人基礎学)	小高 裕之	33	6	27	74.1%	7.4%	29.6%	37.0%	0.0%	25.9%
後期	総合科目*	2U837	総合科目II(職業と学び)	城 仁士	41	1	40	97.5%	25.0%	25.0%	30.0%	17.5%	2.5%
総計					2593	125	2468	88.0%	10.4%	36.7%	29.2%	11.8%	12.0%

*正式な区分名称は「その他必要とされる科目」



5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）

成績評価の方法をシラバスに明示するとともに、毎年、すべての科目の成績評価データをもとに成績分布と合格率を算出し、適切な成績評価がなされているかチェックしている。成績申し立て制度に対応するため成績評価についての資料を5年間保存するとともに、申し立てがあった場合には採点の基準や理由を含め、どうしてそうした成績となったか調査し、ていねいに回答している。（174字）

根拠資料

Web シラバス、成績評価のための資料（答案、出席記録、成績表、集計表等）、成績申し立てに対する回答

基準6 学習成果

6-1【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）

成績分布（5-3-②の根拠資料）からみて学習の達成度は、どの科目も十分であることがわかる。また、毎学生授業評価アンケートの結果から、「総合科目Ⅰ（男女共同参画とジェンダー）」（3.00）、「総合科目Ⅰ（EU論）」（2.50）の2科目以外は3.50以上であり、総合判断も「社会科学のフロンティア」（3.50）と「総合科目Ⅰ（EU論）」（3.00）を除き3.70以上であり、総じて十分学習成果が上がっているといえる。（206字）

根拠資料

5-3-②の根拠資料の表・図、及び、学生授業評価アンケート結果

科目名	教員熱意	予習復習	シラバス	授業理解	興味増加	総合判断
社会と人権(藤田)	4.67	1.00	4.38	4.48	3.98	4.93
社会と人権(小林)	4.86	1.14	4.07	4.14	3.50	4.21
社会科学のフロンティア	3.50	1.25	3.25	3.25	4.00	3.50
国際協力の現状と課題	3.50	1.00	4.75	2.75	3.50	3.75
神戸大学の研究最前線	4.11	1.14	4.14	3.74	3.82	4.10
神戸大学史	4.30	1.40	4.35	4.20	3.35	3.85
瀬戸内海学入門	4.14	2.00	3.71	3.57	3.71	4.00
阪神・淡路大震災	4.27	1.00	4.27	4.13	3.73	4.20
環境学入門	4.67	1.33	3.78	4.11	3.89	4.11
ESD基礎	4.59	1.93	3.85	3.81	3.70	3.96
企業社会論	4.52	1.14	4.10	4.29	4.29	4.71
総合科目I(男女共同参画とジェンダー)	4.00	1.00	4.00	4.00	3.00	4.00
総合科目I(EU論)	2.50	1.00	2.50	3.00	2.50	3.00
総合科目I(ESD論)	5.00	3.00	5.00	4.00	5.00	5.00
総合科目I(ボランティアと社会貢献活動)	4.17	1.50	4.17	4.50	4.67	4.83
総合科目I(グローバルリーダーシップ育成演習)	4.80	3.40	4.60	4.60	4.40	4.60
総合科目I(社会人基礎学)	4.67	1.00	4.00	4.33	4.67	4.67
総合科目II(職業と学び)	5.00	1.00	4.67	4.67	4.33	5.00
総計	4.33	1.41	4.12	4.01	3.85	4.25

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

国際文化学部キャンパスに、自習室、総合図書館、共用スペースがあり、授業時間外の予復習や発展学習、レポート作成、試験勉強に利用できるようになっている。それ以外にも、各学部にはラーニングコモンズをはじめとする学習スペースがあり、学生の自習や共同研究に利用されている。（130字）

根拠資料

キャンパスマップ、建物の図面、案内板

7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

各科目の自己点検・評価シートに明示されているように15科目でガイダンスが行われ、用意した配布資料をもとに、授業のねらい、予定、注意事項、履修上の心得が説明されている。「海への誘い」「瀬戸内海学入門」のように授業開始前に履修希望者を集めて説明を行い、希望者が定員を超えている場合には抽選を行う科目もある。（151字）

根拠資料

自己点検・評価シート、ガイダンス資料、授業中に配布するシラバス

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

オフィスアワーをシラバスに明示して学生からの相談にのっている科目（「神戸大学史」「瀬戸内海学入門」「環境学入門」「総合科目I（グローバルリーダーシップ育成基礎演習）」もあれば、担当者、コーディネータ、TAがメール等で適宜学生からの質問や相談に対応している科目（例えば「神戸大学の研究最前線」）もある。「神戸大学史」ではうりぼーネットの掲示板を利用して学生とのコミュニケーションをしている。また、「ESD基礎」では発達科学部・文学部・経済学部でESDコース履修窓口を設置するとともに、履修学生用HPを運営し学生とのコミュニケーションを図っている。（272字）

根拠資料

自己点検・評価シート、メールの記録